



発行: 真宗大谷派 常入寺  
富山市東老田 787 番地  
電話(076)436-0816  
FAX(076)436-2766  
携帯090-3764-3983  
発行責任: 青井和成

# 祠堂経の歴史

祠堂とは先祖の位牌などをまつるお堂を指す言葉でした。そしてそのお堂に対してお経を読むことが「祠堂経」です。ですから先祖を供養するためにお経を読むことが祠堂経ということになるのでしょうか。

しかし、浄土真宗では位牌というものを用いませし、当然祠堂というものも真宗寺院にはありません。

また、私たちこの世を生きるものたちが私より先にこの世の生を終えお浄土というきよらかな世界にお生まれになられた方々を供養できる存在なのかという問いが親鸞聖人より問いかけてられています。先祖を供養しないといけないという思いは日本に住み、日本の文化の中で生きてきた私たちには当然わき

起こってくる思いです。そういう思いを完全に否定する必要

は全くないことですが、先祖を供養したいという私の思いに立つて先祖の方々もこの世を生きる私たちを何とかしたいと思われていきます。先祖は私たちが供養しないと救われない存在ではありません。先祖は浄土という阿弥陀如来がお作りになられた世界に今既に存在されるのです。この世を生きる私たちが違つて今既に救われている存在なのです。いますでに救われている方々が私たちを見て何とかしないと深く願われているのです。そういう先祖の思いを大切にされてきたのが私たちの念仏を宝とされてきた先輩方々なのです。

そういう浄土真宗の歴史の中で何故祠堂経が相続されてきたのでしょうか。私は祠堂経が絶

え間なく営まれてきたという歴史が間違えであったとは思っていません。

先祖を供養すること、その行為の根底にある先祖を大切に思う気持ちを一つの表現方法として祠堂経であると思つていきます。先祖が大事にしてきたお念仏を相続していく、先祖が自らの宝物としてこられたお念仏の教えを自らが受け継ぎ、未来永劫にまで伝わり続ける、そういう仕事を自分も担つていくと言ふことを確認する行事が祠堂経であると私は頂いています。お釈迦さまのお経を相続し、経をひろめるといふことを目的として建てられたお寺を大事にしていこうということを確認する場が祠堂経という行事の持つ意味だと私は思っています。

私たち一人ひとりが仏法を自分を受け継ぎ未来に残していくという仕事を、リレーの選手のようにバトンを次の人に受け渡すという仕事を担う一員に皆さんでいたしませんか？



# 祠堂経会厳修

6月29(日) 午前10時より 30日(月) 午後4時まで

尼講の御膳付き 29日

法話 30日 寺本 菜都奈さん  
(石川県かほく市)  
(29日は住職が行います)

両日とも

午前の部 午前10時より  
午後の部 午後2時より

おいしいきんぎょはね～  
まっとうちゃあ！



# 御文をいただく 其の一

## 五帳目第一通

末代無智の、在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、さらに余のかたへこころをふらず、一心一向に、仏たすけたまえともうさん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも、かならず弥陀如来はすくいませすべし。これすなわち第十八の念仏往生の誓願のこころなり。かくのごとく決定してのうえには、ねてもさめても、いのちのあらんかぎりには、称名念仏すべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。

御文と聞いてピンと来ない方は御文章といえはわかる方がおられるのではないでしょうか。どれも同じものをさし、お東（真宗大谷派）とお西（浄土真宗本願寺派）での呼び方の違いです。何故呼び方が変わったのかということは今答えるのを差し控えておきます。

御文という言葉も御文章という言葉も知らないという方で「あなかしこ」という言葉が聞き覚えがある方がおられるのではないのでしょうか。御文は東西両本願寺に関係するものにとつて親鸞聖人がお作りになられた正信偈に次いで浸し身のあるものではないのでしょうか。ちなみに御文は本願寺八代の蓮如上人が念仏の教えを分かり易く伝えるために書かれたお手紙を後の世の人が集めたものです。

「末代無知」とは、お釈迦様がご姿をお隠しになられたという文字を見て腹を立てる人がおられるかも知れませんが、おまえは末代無知だ！なんて言われてる気がして…

末代というのには永遠に、ずっとという意味ではありません。末法の時代という意味です。仏教の歴史観には正法・像法・末法というものがありません。お釈迦さまが涅槃に入られても、お亡くなりになられたと言えは簡単なのですが、お釈迦さまは佛という存在なので永遠のいのちを頂いていると考えるので亡くなったという表現はいたしません。現にお釈迦さまの言葉が私の所に届いて私のところで働かれていますから。—お釈迦さまと同じさとりを拓く人がいる時代を正法といいますが、像法とは、正法の次の時代でさとりを拓く人はいないけどお釈迦様と同じ修行をなさる人がいる時代です。そして末法とはさとりも修行もする人がいなくなつたけど、お釈迦様の教えが教えとして残っている時代を言い、今私たちが生きている現代を指します。次に無智とはさとりのないものという意味です。無智と無知は違います。

つながりを大切にしたい  
だから  
月参りの時、忙しくなったら、  
**お茶を飲みながら  
何か話しませんか？**  
お天気の話しからしかできませんが…



蓮如上人

二千五百年以上も経つてしまつている今、お釈迦様の教えを直接聞くことの出来ない、指導を直接受けられなくなつてしまつている時代をまことを、本當のことを何も知らずに生きている私たちはとまず私たちに呼びかけられているのです。

# ご命日の集い

毎月 28日午後2時より 常入寺本堂にて

6月28日は祠堂経会の前日なので休みます

**皆さんも月に一度お寺に集いお茶しませんか？**

どうぞお気楽に顔をお見せ下されれば幸いです。